

『ジェイン・ジェイコブズの思想とこれからの都市計画のあり方』

一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構

特別顧問 野澤 康 (工学院大学)

このゴールデン・ウィーク中に、映画「ジェイン・ジェイコブズ」(*1)を観てきた。いま、都市計画やまちづくり業界の方々の中で話題のドキュメンタリー映画である。ご覧になった方も少なからずいらっしゃるのではないだろうか。加えて、その前日に展覧会「ニュータウン誕生 千里&多摩ニュータウンに見る都市計画と人々」(*2)を観てきた。この両者を見て、さらに近年の都市開発の状況を見て、これからの都市計画について考えるところがいろいろあったので、これからの自分の課題(テーマ)として、備忘録的に書き留めておきたい。

ジェイン・ジェイコブズの都市に関する思想は、ご存知の通り、「アメリカ大都市の死と生」(*3)や「ジェイコブズ対モーゼス ニューヨーク都市計画をめぐる闘い」(*4) (いずれも鹿島出版会)などに詳しい(私自身、これらはもう一度きちんと読むべきと痛感している)。大規模な都市開発のスケール感や純化しすぎた用途などで都市を構成するのではなく、多様性の必要性や街路とそこでの人々の活き活きとした活動の重要性を強く主張している。

一方、展覧会で観たニュータウンは、大都市へ集中する人口の受け皿とするべく、緊急性を要する国家プロジェクトとして、かなりの力技で建設されていったものである。時代や社会の変化からの要請によるものである。人が定住していなかった丘陵地の開発であったとは言え、それまでの地域文脈をかなりの部分で無視していたことは間違いないし、都心からもだいぶ距離があったと言える。多摩ニュータウンの場合は、谷戸地に農地や農村集落があり、そこに住む人々とのせめぎあいの中から、苦肉の策として、台地の上は新住宅市街地開発事業、谷戸地は土地区画整理事業を施行している。この点では、文脈の差異によって、地域の開発イメージや事業手法を選択していたとも言える。

時代背景や地域文脈は全く異なるが、近年の都心での再開発はどうであろうか。前述の映画は、渋谷の映画館で上映されていたので、それを観た後に目に入ってきた渋谷駅周辺の再開発の「嵐」は、いつも以上にショッキングに見えたし、いろいろと思考をめぐらせるきっかけにもなった。

こうした体験から自問自答しているのは、以下のような点である。

- 高層・超高層を建設して(建蔽率を下げて)、地面付近はこんなに豊かな人間のための空間になります、という開発の方法は、正しいのだろうか? 今後も使われる方法なのだろうか?
- 地価に見合った開発をしないと損が生じるとすれば、地価そのものの考え方を大きく転換すべきではないのだろうか?あるいは地価を負担する必要のない開発のしかた、まちのあり様を考えるべきではないだろうか。
- 一方で、規制・ルールによって、頭を抑え込むことばかりやるのが、都市計画の役割であると思われていないであろうか? 地域コミュニティが「小さな事業」を起こすなどの自由度を持って、地域住民の多くが地域での主体的なプレイヤーとなっていくことができるようにならないものだろうか?
- そもそも、人々が幸せに感じる都市空間とはどんなものなのだろうか?

これらの問いに対する答えは、そう簡単に見つかるものでもない。また、一義的に答えが出てくるものでもない。つまり、立場が変われば、答えは自ずと変わってくる。しかし、都市計画や都市開発、まちづくりに何らかの形で関わる人々は、常にこうした疑問を持ち続け、それに対する答えを考え続ける必要があるのではないだろうか。

近年、パブリック・スペースの質の向上や使いこなしの工夫がひとつの大きなテーマとなっているし、都市計画マスタープランなどを策定する議論の中で「人」を中心としたまちのあり方を追求しようとするようになってきている。時代の要請に即した、良い方向性・傾向ではないだろうか。とは言え、建築物のあり方を考えることから逃げてはいけないと、都市計画を生業とする人間のひとりとして自戒している。

こんなことを、まちを歩きながら、今日も考えている。

(2018/05/17)

(*1)東京では、渋谷のユーロスペースで、2018/05/23 までは少なくとも上映があるよう。その後は不明。今後、他都市でも上映される予定もあるようである。ぜひ、DVD化されて欲しい。パンフレット（有料）は、資料的価値高し！

(*2)パルテノン多摩での展覧会は、2018/05/27 で終了。その後、2018/06/09～07/08 の予定で、吹田市立博物館で開催されることになっている。図録（有料）は、資料的価値高し！

(*3)ジェイン・ジェイコブズ著・黒川紀章訳「アメリカ大都市の死と生」鹿島出版会（SD選書）、1977.3

ジェイン・ジェイコブズ著・山形浩生訳「[新版] アメリカ大都市の死と生」鹿島出版会、2010.4

(*4)アンソニー・フrint著・渡邊泰彦訳「ジェイコブズ対モーゼス ニューヨーク都市計画をめぐる闘い」鹿島出版会、2011.4